

奈良原一高 略年譜

作成にあたり『奈良原一高 手のなかの空 1954-2004』(島根県立美術館、2010年) 図録所収の篠谷典子編「奈良原一高年譜」『奈良原一高 王国』(東京国立近代美術館、2014-2015)を参考にした。

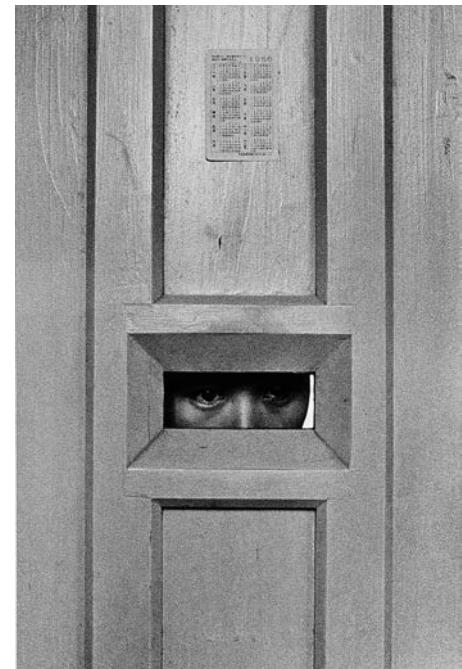
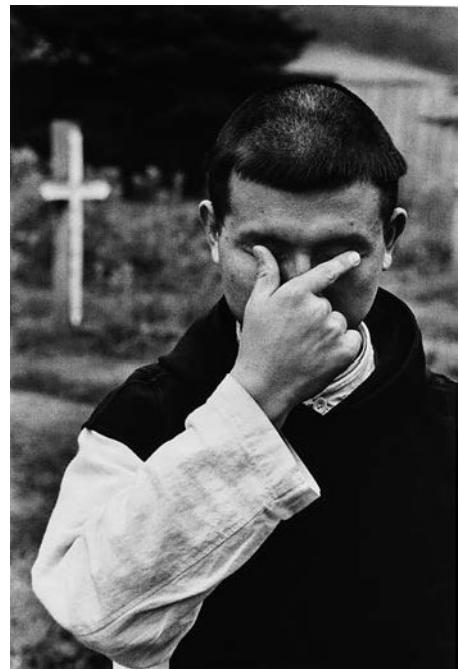
1931年	福岡県大牟田市で生まれる。本名・檜原一高。父は、佐賀地方裁判所の判事をしていた。父の転任について佐賀から久留米、小倉へ移る。	1958年	6月、「王国」のために北海道トラピスト修道院と和歌山の女子刑務所を集中的に撮影。 9月、「王国その1 壁の中」「王国その2 沈黙の園」「中央公論」(中央公論社)に掲載。 9月、個展「王国」(東京、大阪・富士フォトサロン、9日-15日) 第2回写真批評家協会新人賞受賞。
1934年	父が長崎地裁の判事となり、一家も長崎に移転する。長崎は、生涯忘れられない思い出となる。	1959年	5月25日、川田喜久治、佐藤明、丹野章、東松照明、細江英公とともに自主運営による写真のエージェンシー「VIVO」を結成。 10月、第2回ヴェネツィア国際写真ビエンナーレ銅賞。
1939年	父の転勤に伴い、愛知県に転居。	1964年	早稲田大学大学院修士課程修了。 初めてヴェネツィアを訪れ、神秘的な都市の姿に魅了される。
1945年	終戦直前には毎晩空襲に遭った。敗戦を一宮郊外にある禅寺、東林寺の離れた仮住まいへ迎える。	1965年	アメリカ・ニューヨークを経由してヨーロッパから帰国。
1948年	4月、父の転勤に伴い、鳥取に転居。この頃、現像・密着など写真の基礎技術をマスターする。	1966年	4月、東京造形大学の教授に就任。 『カメラ毎日』(毎日新聞社)に日本の伝統文化をテーマにしたシリーズ「日本圖譜」を連載。
1950年	4月、中央大学法学部に入学。父の勧めに従い、司法官の道に進む。	1967年	5月、写真集『ヨーロッパ・静止した時間』(鹿島研究所出版会)を刊行。 同写真集が第11回写真批評家協会作家賞受賞。
1951年	3月、春休み、奈良にあった実家を拠点に、仏像を見て歩く。これを機に法律の道から美術史研究へ転向する。	1970年	2月、写真集『ジャバネスク』(毎日新聞社)を刊行。 春、渡米しニューヨークを中心に4年間滞在(～1974年)。滞在中、ダイアン・アーバスのワークショップへ通う。2度のアメリカ大陸横断旅行。
1954年	3月、中央大学法学部卒業。 4月、早稲田大学大学院芸術専攻(美術史)修士課程に入学。 九州周遊の旅に出て、鹿児島県桜島・黒神村と長崎沖合の人工島・端島(通称「軍艦島」)の生活に衝撃を受ける。「人間の土地」「無国籍地」の撮影を開始。	1975年	写真集「消滅した時間」(朝日新聞社)刊行。
1955年	4月、美術グループ「実在者」に客員として参加。 4月、新しいリアリズムを目指した文化研究会「制作者懇談会」の結成に参加。池田龍夫や河原温と交流。	1980年	10月、個展「ベネチアの光」(東京・新宿ニコンサロン、大阪ニコンサロン)
1956年	5月、個展「人間の土地」開催(東京・松屋ギャラリー)。写真家・奈良原一高として活動を始める。 8月、「緑なき島」「カメラ」(アルス)掲載。 8月、「無国籍地」「フォト35」(新日本写真会)掲載。	1983年	5月、個展「夜光都市・ベネチア」(銀座ニコンサロン、新宿ニコンサロン)
1957年	8月、「王国」の舞台となる和歌山の婦人刑務所を初めて訪れる。 9月、「緑なき島」「アサヒカメラ」(朝日新聞社)掲載。 2月、「廃墟のロマンー無国籍地の連作より一」「ロッコール」No.22(ロッコールクラブ)掲載。 4月、「無国籍地より一鉄の造型」「ロッコール」No.24(ロッコールクラブ)掲載。 5月、「10人の眼」展に出品。美術評論家・福島辰夫、奈良原、細江英公らを中心とした新進気鋭の写真家によるグループ展。 5月、「人間の土地」「中央公論」(中央公論社)に掲載。 7月、「高い壁の中に 女囚」「サンケイカメラ」(産業経済新聞社)掲載。	1985年	7月、写真集「ヴェネツィアの夜」(岩波書店)刊行。 個展「光と闇・二つの世界」(韓国・ソウル・ウォーカーヒル美術館)
		1986年	『ヴェネツィアの夜』が第33回日本写真協会年度賞受賞。
		1987年	5月、『ヴェネツィアの光』(流行通信)刊行。
		1996年	紫綬褒章受章。
		1999年	九州産業大学大学院教授に就任。(～2005年)
		2004年	5月、個展「奈良原一高展 時空の鏡シンクロニシティ」(東京・東京都写真美術館)
		2005年	日本写真協会賞功労賞受賞。
		2006年	奈良原一高アーカイブズを設立。旭日小綬章受章。
		2020年	死去。

奈良原一高「王国」

Narahara Ikko: "Domains"

会期 2023年8月29日(火)-11月5日(日)

会場 近現代美術室A



奈良原一高(1931-2020)は、福岡県大牟田市に生まれ、東京ほか欧米各地を活動の場にした写真家です。父の転勤に伴い長崎をはじめ各地を転々とした奈良原は、早稲田大学大学院在学中の1956年に長崎の軍艦島と鹿児島の黒神村を舞台にした作品「人間の土地」で鮮烈なデビューを飾りました。その後、「王国」「消滅した時間」など、自身の人間観を探求する作品を発表し、戦後を代表する写真家の一人となりました。

福岡市美術館は2021年度に作家のご遺族より寄贈を受け、主要な6つのシリーズからオリジナルプリントを中心に211点を収蔵しました。

本展では、その中から、「沈黙の園」「壁の中」の二部構成によるシリーズ作品「王国」41点をご紹介します。

[学芸員 忠 あゆみ]

左:《沈黙の園(3)》(「王国」より) 1958年(プリント1977年)
右:《壁の中(1)》(「王国」より) 1956-1958年(プリント1998年)
©NARAHARA IKKO ARCHIVES



〒810-0051
福岡市中央区大濠公園1-6
TEL 092-714-6051(代表)
FAX 092-714-6071
www.fukuoka-art-museum.jp

解説・作品リスト

*記載は、出品番号、題名(日英)、制作・プリント年、画面寸法(縦×横cm)、当館分類番号である。すべて技法はゼラチン・シルバープリント。すべての作品は2021年橋原恵子氏(奈良原一高アーカイブズ)より寄贈。

王国

奈良原は、デビュー作「人間の土地」において、作家の個人的なまなざしを感じさせる構図や印象的なカットを交ぜ込みました。戦後の社会を記録したドキュメンタリー写真の全盛期であった当時、その姿勢は賛否両論を招きましたが、「人間の土地」を機に奈良原は気鋭の写真家として注目されることになります。続いて第2回個展で発表された「王国」は、奈良原が自らの姿勢をさらに強く打ち出した作品で、二つの場所を舞台に詩的なイメージが展開します。

作品の舞台となるのは、北海道の男子修道院と和歌山県の女子刑務所です。北海道・当別町のトラピスト修道院は1896年に創立された施設で、修道士たちはカトリックの厳格な規律の下で労働と祈りを中心とした生活を営んでいました。和歌山刑務所は1956年に女子受刑者を収容する施設として独立し、様々な理由から罪を犯した女性たちが、規則的な生活と労働によって更生を目指していました。事情は異なれど、外界から隔離された“壁の中”的世界に奈良原は惹かれ、集中して撮影しました*。

1958年、奈良原は修道院を主題とした「沈黙の園」、刑務所を主題とした「壁の中」からなるシリーズ作品「王国」を発表しました。9月に行われた富士フォトサロンでの個展は、同年の日本写真批評家大賞を受賞しました。1971年以来現在までに3度にわたり写真集として刊行されています**。

「王国」が映し出す男子修道院と女子刑務所の暮らしは、あまりに特殊であるがゆえにルポルタージュの領域を越え、普遍的なテーマを見る者に訴えかけているようです。世間と隔離された場所で、自らを律しながら祈り、あるいは償う人々の姿は「人間とは何に向かって生きていくのか」「孤独であることの意味」といったテーマへと見る者の思索を誘います。

*奈良原一高「20年目のあとがき」(『王国—沈黙の園・壁の中』1978年、朝日ソノラマ)

**1971年に刊行された写真集「王国」(中央公論)は「沈黙の園」「壁の中」に「緑なき島」を加えた三部構成でしたが、本展では、1978年版の写真集の構成に則り、二部構成の作品として「王国」を取り扱います。

1. 沈黙の園

1896年に創立された北海道・当別町のトラピスト修道院に取材した連作。さまざまな年齢の修道士たちが神に奉仕するために労働し、祈る姿に、奈良原は「王国」を連想した。日課をこなす様子が淡々と写されている一方で、目をつむる修道士、手綱をひかれた牛など時折印象的なクローズアップが見られる。写真家として世間からの注目を浴びながら、冷静に自らを見つめようとする奈良原の心模様を読み取ることもできるだろう。また、アーチのついた窓が、外界との唯一のつながりとして象徴的に映し出されている。

1 沈黙の園 (1) (「王国」より)

Garden of Silence (1) : Domains
1958 (プリント1977)
32.9×21.6
1-F-626

4 沈黙の園 (4) (「王国」より)

Garden of Silence (4) : Domains
1958 (プリント1997)
47.7×32.5
1-F-628

7 沈黙の園 (40) (「王国」より)

Garden of Silence (40) : Domains
1958 (プリント1997)
47.9×31.7
1-F-642

10 沈黙の園 (18) (「王国」より)

Garden of Silence (18) : Domains
1958 (プリント1998)
47.6×31.8
1-F-634

13 沈黙の園 (30) (「王国」より)

Garden of Silence (30) : Domains
1958 (プリント1996)
47.8×31.6
1-F-639

2 沈黙の園 (3) (「王国」より)

Garden of Silence (3) : Domains
1958 (プリント1977)
32.9×21.9
1-F-627

5 沈黙の園 (6) (「王国」より)

Garden of Silence (6) : Domains
1958 (プリント1997)
47.5×31.6
1-F-630

8 沈黙の園 (9) (「王国」より)

Garden of Silence (9) : Domains
1958 (プリント1996)
48.0×32.0
1-F-632

11 沈黙の園 (25) (「王国」より)

Garden of Silence (25) : Domains
1958 (プリント1997)
31.9×47.9
1-F-638

14 沈黙の園 (32) (「王国」より)

Garden of Silence (32) : Domains
1958 (プリント1997)
47.9×31.8
1-F-640

3 沈黙の園 (5) (「王国」より)

Garden of Silence (5) : Domains
1958 (プリント1996)
31.8×47.8
1-F-629

6 沈黙の園 (7) (「王国」より)

Garden of Silence (7) : Domains
1958 (プリント1999)
25.9×17.4
1-F-631

9 沈黙の園 (12) (「王国」より)

Garden of Silence (12) : Domains
1958 (プリント1998)
47.8×37.8
1-F-633

12 沈黙の園 (97) (「王国」より)

Garden of Silence (97) : Domains
1958 (プリント1997)
47.8×31.8
1-F-651

15 沈黙の園 (33) (「王国」より)

Garden of Silence (33) : Domains
1958 (プリント1998)
47.9×31.7
1-F-641

16 沈黙の園 (84) (「王国」より)

Garden of Silence (84) : Domains
1958 (プリント1997)
47.9×31.5
1-F-650

19 沈黙の園 (23) (「王国」より)

Garden of Silence (23) : Domains
1958 (プリント1996)
47.7×30.2
1-F-637

22 沈黙の園 (48) (「王国」より)

Garden of Silence (48) : Domains
1958 (プリント1997)
47.9×26.9
1-F-644

25 沈黙の園 (53) (「王国」より)

Garden of Silence (53) : Domains
1958 (プリント1998)
47.7×31.9
1-F-647

17 沈黙の園 (79) (「王国」より)

Garden of Silence (79) : Domains
1958 (プリント1997)
47.9×31.9
1-F-649

20 沈黙の園 (21) (「王国」より)

Garden of Silence (21) : Domains
1958 (プリント1997)
47.8×32.1
1-F-635

23 沈黙の園 (49) (「王国」より)

Garden of Silence (49) : Domains
1958 (プリント1999)
33.1×21.9
1-F-645

26 沈黙の園 (60) (「王国」より)

Garden of Silence (60) : Domains
1958 (プリント1998)
31.8×47.9
1-F-648

18 沈黙の園 (22) (「王国」より)

Garden of Silence (22) : Domains
1958 (プリント1998)
48.2×37.7
1-F-636

21 沈黙の園 (47) (「王国」より)

Garden of Silence (47) : Domains
1958 (プリント1999)
32.7×21.8
1-F-643

24 沈黙の園 (52) (「王国」より)

Garden of Silence (52) : Domains
1958 (プリント1996)
47.9×31.3
1-F-646

2. 壁の中

1956年に女子受刑者を収容する施設として独立した和歌山県の和歌山刑務所に取材した連作。様々な理由から罪を犯した女性たちが、規則的な生活と労働によって更生を目指している。受刑者と同居する子どもの様子、娯楽の時間、工場労働などの日常生活の光景に、奈良原は柵や扉をフレーム・インさせている。なかでも刑務所を取り囲む白い壁は、彼女たちが世間に易々と出ることができないという圧倒的な現実を示す。奈良原は、罪を犯す人、隔離しようとする人の両方に人間の業を見て取っているようである。

27 壁の中 (1) (「王国」より)

Within the Walls (1) : Domains
1956～1958 (プリント1998)
47.8×31.9
1-F-652

30 壁の中 (44) (「王国」より)

Within the Walls (44) : Domains
1956～1958 (プリント1997)
48×31.9
1-F-666

33 壁の中 (15) (「王国」より)

Within the Walls (15) : Domains
1956～1958 (プリント1998)
31.6×47.9
1-F-656

36 壁の中 (39) (「王国」より)

Within the Walls (39) : Domains
1956～1958 (プリント1997)
47.6×31.7
1-F-662

39 壁の中 (23) (「王国」より)

Within the Walls (23) : Domains
1956～1958 (プリント1998)
32.0×47.9
1-F-659

28 壁の中 (48) (「王国」より)

Within the Walls (48) : Domains
1956～1958 (プリント1997)
31.9×47.7
1-F-665

31 壁の中 (6) (「王国」より)

Within the Walls (6) : Domains
1956～1958 (プリント1977)
20.0×28.0
1-F-654

34 壁の中 (17) (「王国」より)

Within the Walls (17) : Domains
1956～1958 (プリント1998)
31.8×47.7
1-F-657

37 壁の中 (56) (「王国」より)

Within the Walls (56) : Domains
1956～1958 (プリント1997)
31.7×47.7
1-F-664

40 壁の中 (42) (「王国」より)

Within the Walls (42) : Domains
1956～1958 (プリント1997)
31.9×47.7
1-F-663

29 壁の中 (3) (「王国」より)

Within the Walls (3) : Domains
1956～1958 (プリント1997)
33.8×48.0
1-F-653

32 壁の中 (11) (「王国」より)

Within the Walls (11) : Domains
1956～1958 (プリント1977)
18×28.0
1-F-655

35 壁の中 (19) (「王国」より)

Within the Walls (19) : Domains
1956～1958 (プリント1998)
31.6×47.7
1-F-658

38 壁の中 (26) (「王国」より)

Within the Walls (26) : Domains
1956～1958 (プリント1997)
31.7×47.6
1-F-660

41 壁の中 (27) (「王国」より)

Within the Walls (27) : Domains
1956～1958 (プリント1977)
18.5×27.9
1-F-661